

日本語が自然に入る環境が必要

海外に暮らしていると、子どもの日本語力の伸び悩みが気になります。英語で会話をするような家庭のみならず、日本語で会話をしている家庭でもそう感じることもあるでしょう。現地校に通学している子どもの場合は、1日の約3分の1を英語環境にて過ごしているわけですから当然です。そして、英語環境で過ごすのが長くなればなるほど、日本語力の伸長は滞り、場合によっては低迷してしまうこともあります。

日本語力向上のためには日本語に触れる時間を増やすことが必要です。しかし、現地校の学習に加え、クラブ活動や習い事などが詰まっている日ごろのスケジュールに、日本語学習の時間をさらに組み込むことはなかなか難しいのではないのでしょうか。また、家庭でも英語で会話している子どもに日本語で会話させることは至難の業です。

したがって、日常とは異なったスケジュールで生活できる夏休みのような長期休暇時に日本語学習の時間を組み



体験入学は帰国後の準備としても重要

日本語力を維持・向上させる方法

～夏休みを有効に利用したい

米日教育交流協議会 (UJEEC) ・代表 丹羽筆人

込むのが得策です。生活空間に日本語が飛び交い、自然に目や耳から日本語が入ってくる環境で生活して学ぶことが、日本語学習には最も効果的であると多くの日本語教師の先生方が異口同音に仰います。そして、子どもの日本語力や目的に合った手段にて学習すれば、学習効果も増大するのです。

帰国予定・受験予定の子どもの日本語学習

日本における日本語学習の定番となっている日本の学校での体験入学は、年齢相応のレベルの日本語に触れることができ、同年代の子どもとの交流もできるのでとてもよい日本語学習手段です。特に帰国予定がある子どもは、日本の学年相当の日本語力とともに日本の学校生活に適応する必要がありますので、体験入学はとても重要です。

しかし、体験入学は、学年相当の学習ができるだけの日本語力、それも「読む力」、「書く力」がないと授業についていくことができず、返って日本語嫌いになってしまうこともあります。また、体験入学受け入れ校の多くは公

立校であり、特別な指導やケアを要求することはできません。日常的に日本語学習をしていないような子どもの受け入れには難色を示されることもあります。ただし、授業にはあまりついていけなくても、楽しい学校生活を送ることができるという子どももいますので、日本語会話力や性格も鑑みながら選択するとよいでしょう。

いずれにしても体験入学のみに頼ることなく、通常も補習校に通学して日本語学習を進めるとともに日本の学校文化に慣れておくことが大切です。

一方、帰国時に中学入試や高校入試などの受験を予定している子どもは、体験入学に加え、学習塾で受験対策をすることもよいでしょう。特に、難関とされる学校の受験を考えている場合は、帰国生入試といえども一般入試とほぼ同格の実力が求められる学校が目立ちます。日ごろ、在米の学習塾に通学していたとしても、日本の学習塾とは学習内容はもちろん、雰囲気も異なります。日本の受験生とともに学ぶことが良い刺激になり、その後の学習の励みにもなるでしょう。

帰国予定がない子どもの日本語学習

日本では体験入学以外にも日本語学習手段があります。最近、日本でも実施されることが多くなったサマーキャンプは、体験入学とは異なり日本語力はそれほどなくてもついていけますし、楽しみながら日本語に触れることができるという点ではよい手段だと思います。ただし、ほとんどが海外在住者を対象としたものではないので、日本の子どもとの共同生活におけるトラブルに注意する必要があります。日本の子どもの中で浮いてしまったとか、発音やしぐさを変だと言われて傷ついたというような話を聞くこともあります。

一方、海外在住者を対象としたものでは、表敬訪問や史跡見学が中心であることが多く、また、通訳がすべて英語で説明してくれるなど至れり尽くせりなケアもあるために、単なる旅行者になってしまうこともありますので注意が必要です。自らが日本語を聞いたり話したりする努力をしないと、日本語学習の効果は望めないからです。

ただし、どんな手段を利用したとし

でも、日本語学習にとって大切なことは、子どもが「自分にとって日本語が必要である」と思うことです。日本語ができなくても何の不自由もなく生活し、将来にも不安のない子どもに、それを分からせることはなかなか大変です。しかし、その一方で、大学生や社会人になってから日本語学習を始めたにもかかわらず、流暢な日本語を操る人々があります。この人たちに共通していることは日本が大好きであるということです。つまり、子どもが日本語日本を好きになること、日本で楽しむためには日本語が必要だと実感することが、日本語学習のモチベーションになり、日本語力の向上につながるのです。

「サマーキャンプ in ぎふ」の日本語学習

米日教育交流協会の主催する日本語・日本文化体験学習プログラム「サマーキャンプ in ぎふ」は、2006年から5年間にわたり、日本語学習のモチベーションを高めることに主眼を置いて実施してきました。そこで実践してき

た多彩な自然・文化・歴史体感プログラムは、参加した子どもたちに感動や刺激を与え、日本語学習の必要性を感じさせてきました。子どもたちは、地元の自然を利用した昔ながらの伝統工芸や伝統食の作り方を習うとき、禅宗寺院でご住職から座禅の組み方やお経の意味の説明を聞くとき、学校や地元の子どもたちとのスポーツや音楽交流で会話をするとき、地元の民家でのホームステイでホストファミリーと生活するときなど、すべての体験をより楽しむために日本語が大切だということに自然に気づくのです。

このキャンプでは、活動中はすべて日本語で指導するというのも徹底してきました。もちろん、子どもたちからは自然に英語が出てしましますが、指導者は日本語しか使いませんし、通訳もしません。いわゆる日本語のシャワーを徹底的に浴びせます。また、このキャンプは海外在住者のために企画したものですから、参加者はすべて海外在住者です。アメリカのみならず、カナダ、イギリス、中国、韓国などか

らも参加しますが、共通言語の日本語と英語を駆使して、初対面でも兄弟姉妹のように仲良くなります。また、交流する地元の子供たちは、昔ながらの温かい人々の中で育つたためにとっても純朴ですし、毎年海外の子供とも交流することをとても楽しみにしていますのでトラブルとは無縁です。

参加者の保護者からは、「日本語学習意欲が向上した。」「日本語で話すことが多くなった。」「日本語の本を読むようになった。」というような喜

びの声が毎年のように寄せられています。

「サマーキャンプ in ぎふ」は2011年度の参加者の申し込みを受け付けています。詳細は、米日教育交流協会のウェブサイト www.ujeec.org をご覧ください。



執筆者のプロフィール

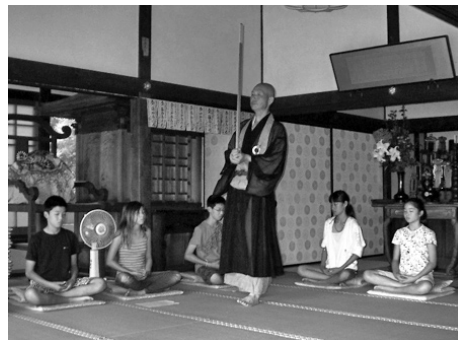
河合塾で十数年間にわたり、大学入試データ分析、大学情報の収集・提供、大学入試情報誌「栄冠めざして」などの編集に携わるとともに、大学受験科クラス担任として多くの塾生を大学合格に導いた。また、現役高校生や保護者対象の進学講演も多数行った。一方、米国・英国大学進学や海外サマーセミナーなどの国際的企画も担当。1999年に米国移住後は、CA、NJ、NY、MI州の補習校・学習塾講師を務めた。2006年に「米日教育交流協会（UJEEC）」を設立し、日本での日本語・日本文化体験学習プログラム「サマー・キャンプ in ぎふ」など、国際的な交流活動を実践。さらに、「河合塾海外帰国生コース北米事務所」のアドバイザーとして帰国生大学入試情報提供と進学相談も担当し、北米各地での進学講演も行っている。また、デトロイトりんご会補習授業校講師も務めている。

◆米日教育交流協会（UJEEC）

Phone : 1-248-346-3818 Website : www.ujeec.org



伝統工芸制作で日本の自然を知る



日本語の説明でマスターした座禅



スポーツクラブとの楽しい交流も日本語で



ホストファミリーとの楽しい日本語生活